

(IV-67) 個人の観光行動の変化に着目した観光施設整備の変遷についての一考察

足利工業大学大学院 学生員 小松礼知

足利工業大学工学部 正会員 為国孝敏

足利工業大学工学部 正会員 中川三朗

1. はじめに

戦後のわが国における観光形態は、高度経済成長と交通基盤施設の整備により、様々に変化してきた。

一方で、国や地方公共団体が、自然休養村、青少年旅行村などの「公的観光レクリエーション地区」の整備に力を入れたことを見逃すことはできない。

そこで、本研究では公的観光レクリエーション地区整備の中でもキャンプ場整備に着目し、公的観光レクリエーション地区整備の変遷および、キャンプ場整備の変遷から個人行動の変化を捉えることを目的とする。

2. 公的観光レクリエーション地区整備の変遷

戦前には、公的観光レクリエーション地区としての整備はされておらず、単に国立公園として、地区を指定することにとどまっていた。

戦後になると、昭和29年より公的観光レクリエーション地区の一環として、国民保養温泉地の指定がされた。これを端緒に、昭和36年から国立公園および国立公園内の自然環境の優れた休養適地に、各種の野外レクリエーション施設を総合的に整備した保健保養のための施設地区(国民休暇村)の建設がはじめられた。

2-1 初期の整備計画

本格的に公的観光レクリエーション地区の整備が始まるのは、昭和36年に行われた国民休暇村の指定からである。これは、自然公園法に基づく集団施設地区として整備されるもので、歩道、園地、休憩所、キャンプ場等の公共施設は国または地方公共団体が整備することとし、宿舎、ロッジ、スキーリフト等の有料施設は財団法人国民休暇村協会が建設し運営している。

そして、年々増加する野外レクリエーションの需要に対応するために、昭和45年度に創設された国民休養地制度により都道府県立自然公園にも宿泊施設をはじめ、歩道、園地、キャンプ場、運動場等の各レクリエーション施設を総合的に整備することを目的とする地域、国民休養地が整備されはじめた。

昭和46年度には、都市生活者等が農山漁村の豊かな自然と農林漁業に親しみつつ休養する場として、観光農園、遊歩道等の各種施設の整備を行う自然休養村整備事業を第二次農業構造事業の一環として実施され指定されはじめた。

昭和48年度には、都市計画としてレクリエーションに適した地域開発を総合的に行うことを目的とした整備計画(レクリエーション都市)が承認された。この事業は地方公共団体が主体となり、公共民間協力方式による第三セクターの活用により実施されている。

これら、4つのレクリエーション地区は自然に恵まれた地域に宿泊施設、休養施設やキャンプ場等の施設を整備することにしている。したがって、これらの目的は自然とふれあい、野外宿泊での休養を目的としたものと考えられる。また、これらは比較的大規模なため主に団体客(15人以上)を対象としたものと考えられる。

2-2 スポーツ・レクリエーション施設 の取り入れ

昭和48年度より勤労者の週休二日制の普及等に伴って増大する余暇対策の施設として勤労者野外活動施設が設置された。この施設はセンターハウスおよび附帯野外スポーツ施設を備えた日帰りを中心とした施設内容であるA型(愛称: いこいの広場)と宿泊施設、研修施設およびスポーツ・レクリエーション施設を備え

表-1 主要な公的観光レクリエーション地区

承認年度	種 類	現在の所管省庁
昭和29年 (最初の指定年)	国民保養温泉地	環境庁
昭和36年度	国民休暇村・ふるさと自然公園国民休養地	環境庁
昭和46年度	青少年旅行村	運輸省
(指定開始)	自然休養村	農林水産省
昭和48年度	レクリエーション都市	建設省
	勤労者野外活動施設 (「いこいの広場」、「いこいの村」)	労働省
昭和53年度	家族旅行村	運輸省
昭和54年度	山村都市協同環境総合整備モデル事業地区	国土庁
昭和55年度 (開業初年度)	大規模年金保養基地	厚生省
昭和59年度	自然観察の森	環境庁
昭和60年度 (整備完了初年度)	「リフレッシュふるさと」推進モデル事業 地区	国土庁
平成元年度 (ふるさといきものふれ あいの里)	自然環境保全活動拠点 (「ふるさといきものふれあいの里」、 「環境と文化のむら」「ふるさとと自然の みち」)	環境庁
平成4年度	家族キャンプ村	運輸省

キーワード: 公的観光レクリエーション地区、個人行動 〒326-8558 足利市大前町268-1 TEL 0284-62-0605 FAX 0284-64-1061

た宿泊施設を中心とした施設内容であるB型（愛称：いこいの村）の二つに分けられている。

昭和50年代に入ると、まず、昭和53年度より家族を対象とした中規模レクリエーション地区（家族旅行村）（50ha程度）の整備が開始された。この施設は主として地方都市住民の観光レクリエーション需要を充足する目的でピクニック緑地、キャンプ場、スキー場、遊歩道、サイクリング道路等の多様なレクリエーション施設を配置したものである。また、大都市住民に対しは、昭和48年度に大規模レクリエーション地区（500ha程度）の整備（整備内容は家族旅行村と同様）を推進している。

この2つのレクリエーション地区は宿泊施設、休養施設やキャンプ場等の施設はもちろんのことスポーツ・レクリエーション施設（運動場、テニスコート等）やピクニック緑地の各レクリエーション施設が整備することとしている。特にスポーツ・レクリエーション施設に関しては東京オリンピックの余波やゴルフ場、ゴルフ練習場の建設の急増等により国民がスポーツに関心をもちはじめ、スポーツの大衆化とし始めたためと考えられる。この時期頃よりマイカーの急増等により、団体旅行から家族、友人などの少人数グループによる観光の変化に対応するためのレクリエーション施設の整備をされたものだと考えられる。

2-3 交流・自然志向の高まり

昭和54年度になると、山村と都市協同の山村振興モデル事業地区（現在の都市交流の山村振興モデル事業地区）が実施される。このモデル事業地区は山村と都市が協同でレクリエーション施設等を整備することにより、都市住民の緑に対する要求を満たすとともに、山村の地場産業振興、住民所得の向上および生活環境の整備を図り、山村と都市が協力して余暇活動施設や体験宿泊施設等を整備することを目的としている。

昭和55年度より年金生活に入った人々が単に余生を送るというわけではなく、生き甲斐のある有意義な生活を送るのに必要な場を提供し、現役の勤労者や青少年層の健康増進、増大する余暇の健全かつ有効な利用等に資することを目的とする年金福祉事業団が設置者となって、建設を進める総合的な保養施設である大規模年金保養基地が開業をはじめた。具体的に、規模は300haを越える敷地に宿泊施設（ホテル、ペンションなど）、教養・文化施設、保養施設および保健施設（グラウンド、体育館、キャンプ場など）が配置された。

昭和59年度には身近な自然とのふれあいを促進するために、三大都市圏および政令市において自然観察のためのネイチャー・センター、歩道等を整備する自然観察の森の整備され始めた。この整備は小動物の生

息環境の創出を図り、自然保護教育を推進していこうとねらったものである。

昭和60年度より過疎地域の魅力や特性を一層高めるような施設等の整備を図り、過疎地域と都市等との交流を促進することを目的とするリフレッシュふるさと推進モデル事業が始まった。

平成に入ると小動物が生息する地域、里山の緑、水辺環境等身近な自然が一定の広がりを持って残されている地域において、自然を保全しつつ、自然教育を推進するための自然環境保全活動拠点として環境と文化の村、ふるさといきものふれあいの里（平成元年度より）の整備を進めている。事業は活動の中心となるネイチャーセンターをはじめ、歩道、観察施設、駐車場等を整備し、ボランティア参加等による自然解説を行うものである。

これらのレクリエーション地区は宿泊施設をはじめ自然とふれあうための施設等を余暇活動や交流または、自然とふれあうために整備されたものである。人と人との交流（家族との交流も含む）をする傾向が高まったためと考えられる。

近年では平成4年度から余暇活動の増大、自然志向の高まりなどに対応するために低廉かつ質の高いオートキャンプ場を恵まれた自然の中に整備し、観光レクリエーション活動の場を確保しようとする家族キャンプ村の整備がはじまった。家族キャンプ村は、国の補助事業として地方公共団体が主体となって整備するもので、豊かな自然の中でオートキャンプ場施設を中核とし、周辺観光レクリエーション施設や観光資源、自然、文化資源と有機的に連携し、自然環境保全に十分留意しつつ整備推進するものである。

3. おわりに

まず、各省庁による公的観光レクリエーション地区の指定は、国立公園などの公園から農山漁村へと変化してきたことが分かった。また、キャンプ場整備では、単に自然の中での休養を目的とした大規模な休養施設の整備から、スポーツ・レクリエーション施設を取り入れた施設の整備へと変わり、さらに、自然とのふれあいと、それぞれの指定地区の人々との交流を目的とした施設の整備が進められ、家族のふれあいを目的とした家族キャンプ村（オートキャンプ場）の整備へと移り変わってきたことが分かった。

近年のレクリエーション・ビークル（RV）の高まりを考慮すると、このオートキャンプ場の配置、各施設の設置が、利用者のニーズに合っているかということを検証していくことが、これからの公的観光レクリエーション地区整備にとって重要なポイントとなるのではないかと考える。